

練馬区独立 70 周年記念事業 練馬区地域おこしプロジェクト

**地域共生社会の高齢者支援における
コンビニエンスストアとの協働モデルの構築**

**2017～2018 年度
報告書（概要版）**

2019 年 3 月

ねりまコンビニ協働プロジェクト

はじめに

今から約5年前、地域で暮らす高齢者の生活をコンビニエンスストアが支えていることに着目し、全国のコンビニエンスストア店舗の方へインタビュー調査を行ったことが、本プロジェクトの発端となりました。その後、コンビニエンスストアにおける高齢者支援の実態を把握する調査などを進めていく中で、現在のプロジェクトメンバーとの出会いがあり、研究グループへと発展しました。そして2017年8月に練馬区の地域おこしプロジェクトに採択されたことにより、練馬区全域において、様々な関係者の方々を巻き込んだ活動を展開することができました。

プロジェクトの活動を通して、たくさんのお出会いがあり、いくつものうれしい出来事がありました。コンビニエンスストア店舗の皆様にご協力いただいたインタビューや質問紙調査の中では、お店でいつも自然にあたたかく高齢者を見守り、支えてくださっている様子がうかがえ、活動を進める原動力になりました。プロジェクトで開発した研修ツール「N-impro」のワークショップでは、参加者の方々から多くのフィードバックをいただき、いくつかの地域包括支援センターでは早速、地域づくりの活動に「N-impro」を活用していただきました。こうした心に残る出来事をすべてここで紹介することはできませんが、それらによってプロジェクトの意義を再確認でき、ある時は取り組みの内容を見直すきっかけにもなりました。

このたび、地域おこしプロジェクトとしての「ねりまコンビニ協働プロジェクト」の活動は終了し、練馬区の事業として引き継がれます。プロジェクト終了後も、メンバーはそれぞれの立場から、練馬区における「N-impro」の普及・発展、コンビニエンスストアをはじめとする地域の方々との協働関係づくりに貢献していきたいと考えています。そして将来的には、練馬区から発信された「N-impro」が全国の各地域において、高齢者にとって住みやすい地域づくりに役立てられることが、私たちの希望です。

本プロジェクトの実施にあたり、多くの方々にご支援をいただきました。練馬区内のコンビニエンスストア店舗のオーナー・店長、従業員の皆様、練馬区の地域包括支援センターの皆様、中でもモデル地域の活動を一緒に取り組んでくださった中村橋地域包括支援センターの皆様に、深く御礼申し上げます。また、プロジェクトを進めるにあたりご協力をいただきました一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会の皆様およびコンビニエンスストアチェーンの皆様、練馬区内外からプロジェクトを応援してくださった皆様へも感謝申し上げます。

最後に、終始プロジェクトを支えてくださった練馬区 地域文化部 協働推進課の皆様と、私たちの取り組みを引き継いでくださる高齢施策担当部 高齢者支援課の皆様により感謝申し上げます。

2019年3月

「ねりまコンビニ協働プロジェクト」を代表して

五十嵐 歩

．背景

現代の私たちの生活に不可欠ともいえるコンビニエンスストア(以下、コンビニ)は、高齢者にとっても身近な存在になっている。現在、日本全国に5万店舗以上のコンビニがあり、高齢者人口の38%がいずれかのコンビニから300m以内の距離に居住している¹⁾。過去の調査から、多くの高齢者がコンビニを利用している実態が明らかになっており、例えば65～79歳の高齢者のうち、男性で約半数、女性で約3割が週に1回以上コンビニを利用しているという結果が示されている²⁾。

日本の高齢化の進行や世帯構成の変化の状況も踏まえ、コンビニ各社が高齢者を重要な顧客ととらえ、高齢者をターゲットにしたサービスを展開している。コンビニ各社が加盟する日本フランチャイズチェーン協会(JFA)では、2005年より地域社会への貢献を目的とする「セーフティステーション活動」を展開しており、その活動内容の一つに「高齢者・身体障がい者の方への買い物のお手伝いと連絡」がある。JFAによる2017年の調査によると、過去1年間に高齢者保護を経験した店舗は約18%であり、保護の理由は徘徊が約半数、27%が徘徊以外の問題行動によるものだった³⁾。地方自治体もコンビニの高齢者支援の役割の重要性を認識し、コンビニチェーンとの高齢者見守り協定の締結を推進している⁴⁾。しかし、協定書には地域包括支援センターなど地域の専門機関とコンビニとの連携内容や方法は具体的に示されておらず、実際に連携を進めるうえでの課題は多い。

このような背景から、私たちはコンビニにおける高齢者支援に注目し、地域包括ケアシステムにおけるコンビニとの協働をどのように進めるのか、そのノウハウをモデル化することを目指したプロジェクトに取り組んだ。

-
- 1) 竹本遼太：コンビニ難民 小売店から「ライフライン」へ。中央公論新社，2016。
 - 2) 株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント：生活者総合ライフスタイル調査システム「CORE」レポート．2015年7月 https://www.rad.co.jp/report_list/20150706。
 - 3) 日本フランチャイズチェーン協会：コンビニエンスストア セーフティステーション活動 アンケートリポート．2018年3月 http://ss.jfa-fc.or.jp/folder/top/img/n_201805231535583hy6y6nxenc1zn47.pdf。
 - 4) Nakamura Y, Matsumoto H, Yamamoto-Mitani N, Suzuki M, Igarashi A.: Impact of support agreement between municipalities and convenience store chain companies on store staff's support activities for older adults. Health Policy 122(12):1377-1383, 2018.

．プロジェクト体制

ねりまコンビニ協働プロジェクトのメンバーの構成を、表1に示す。メンバーは大きく分けて、学術機関、介護事業所、コンビニ店舗に所属しており、メンバーの活動を、練馬区 地域文化部 協働推進課の職員がサポートする体制で、プロジェクトが進められた。別の部署に本務をもつ若手職員が、プロジェクトへの参加のために協働推進課を兼務し、プロジェクトメンバーとともに精力的に活動に参加したことが、本プロジェクトの特徴であり、強みであった。

表1 プロジェクトメンバーの構成

		氏名	所属等
ねりまコンビニ協働プロジェクト	学術機関	五十嵐 歩	東京大学大学院 医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野 講師
		山本 則子	東京大学大学院 医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野 教授
		鈴木 美穂	東京大学大学院 医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野 客員研究員
		松本 博成	東京大学大学院 医学系研究科 地域看護学分野 大学院生
		高岡 茉奈美	東京大学大学院 医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野 大学院生
		久貝 波留菜	東京大学大学院 医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野 大学院生
	介護事業所	青木 伸吾	有限会社 アオキトゥーワン 代表
		油山 敬子	小規模多機能型居宅介護「たがらの家」 管理者兼法人介護総合責任者
		安井 英人	小規模多機能型居宅介護グループホーム「しゃくじいの庭」 統括責任者
	コンビニ	村田 聡	セブン-イレブン 練馬光が丘西大通り店、練馬春日町4丁目店、練馬北町3丁目店 オーナー
柳瀬 奈緒美		セブン-イレブン 練馬下石神井3丁目店、練馬田柄通り店 マネージャー	
区職員 (本所属)	加藤 望良	協働推進課 協働推進担当係(施設管理担当部施設整備課建築担当係) ^{*†}	
	稲村 真弓	〃 (土木部計画課地中化推進係) [*]	
	片岡 智史	〃 (教育振興部教育総務課庶務係) [*]	
	西川 僚平	〃 (議会事務局調査係) [*]	
	矢田 愛香	〃 (光が丘総合福祉事務所保護第五係) [†]	
	宮原 正量	協働推進課 課長 ^{*†}	
	関口 一成	協働推進課 協働推進担当係 係長 [*]	
	郷戸 理恵	協働推進課 協働推進担当係 係長 [†]	
	高田 良介	協働推進課 協働推進担当係 ^{*†}	
	奥山 智子	協働推進課 協働推進担当係 [†]	

* 2017年度

† 2018年度

2018年度は、モデル地域を担当する中村橋地域包括支援センターの職員と協働し、活動を行った（表 1-3-2）。

表 1-3-2 モデル地域における活動メンバー

氏名	所属等
島田 浩美	中村橋地域包括支援センター 社会福祉士

．プロジェクトの概要

本プロジェクトは、高齢者支援におけるコンビニとの協働モデルを開発するために、Community-based Participatory Research (CBPR) の手法を参考に行った研究の一部として実施された。一般的にCBPRは、健康問題を感じ取る、メンバーを集め組織をつくる、健康課題を明確にする、計画をつくり実践する、活動を評価し普及する、という5つのステップで進められる⁵⁾。このうちから途中をプロジェクトが開始される以前に行い、残りのからを地域おこしプロジェクトの助成を得て実施した。

この研究の一連の流れとともに、本プロジェクトで実施された活動内容を概説する。

地域おこしプロジェクト以前（2013年～2017年7月）

地域おこしプロジェクトの助成を受ける以前は、以下に示す2つの研究助成により研究を進めた。

- 2012年度 東京大学 Alliance for Global Sustainability (AGS) プロジェクト研究助成「高齢化社会における地域社会サステナビリティへのコンビニエンスストアとファミリーレストランの貢献」(研究代表者：鈴木美穂)
- 2015～2017年度 日本学術振興会科学研究費助成事業(挑戦的萌芽研究)「地域高齢者を支えるコンビニエンスストア：地域包括ケアにおける協働モデルの構築」(研究代表者：五十嵐歩)

健康問題を感じ取る

このプロセスは、現プロジェクトメンバーのうち、東京大学高齢者在宅長期ケア看護学分野に所属する看護研究者により行った。コンビニによる高齢者支援の可能性に着目し、まず全国のコンビニへのインタビュー調査を実施し、コンビニにおける高齢者支援の実態と課題を検討した⁶⁾。次に、練馬区在住の認知症をもつ高齢者本人および関係者にインタビュー調査を行い、コンビニが高齢者にとってどのように生活の支えになっているか、当事者の視点も含めて検討した⁷⁾。これらの調査より、コンビニによ

⁵⁾ CBPR 研究会著：地域保健に活かす CBPR コミュニティ参加型の活動・実践・パートナーシップ ．医歯薬出版，2010 ．

⁶⁾ 鈴木美穂，山本則子，五十嵐歩：コンビニエンスストアにおける高齢者支援に関するインタビュー調査．日本老年医学会雑誌 51 Suppl.:127，2014.

⁷⁾ 五十嵐歩，松本博成，油山敬子，ほか：在宅認知症高齢者のコンビニエンスストア利用に関する1事例の検討：地域包括ケアにおける協働の推進に向けて．日本老年医学会雑誌 53 Suppl.:150-151，2016 ．

る高齢者支援の実態が明らかになり、地域包括ケアシステムの中で専門職とコンビニがいかに協働するか、という課題に取り組むことにした。

メンバーを集め組織をつくる

で実施した練馬区でのインタビュー調査をきっかけに、現プロジェクトのメンバーである大学所属の看護研究者、コンビニ店舗の経営者、小規模多機能型居宅介護事業所（以下、小多機）の経営者らによる組織がつくられ、「コンビニ協働プロジェクト」の活動が開始された。

健康課題を明確にする

生活に支援・介護を要する高齢者に対し、コンビニがどのような支援を行っているのかを把握するため、訪問介護事業所・小多機を対象とする質問紙調査を実施した⁸⁾。さらに、コンビニにおける高齢者への支援の実態と課題をより深く把握するため、練馬区内のコンビニを対象とするインタビュー調査を行った。

計画をつくり実施する（前半）

の検討において、コンビニによる地域高齢者への支援の役割が明確になったと同時に、それぞれの店舗において、高齢者への対応に関する困難な状況に直面していることが示された。この課題を解決する方策として、N-impro の開発を計画し、そのプロトタイプを作成した。

地域おこしプロジェクト（2017年8月～2019年3月）

練馬区独立70周年記念事業「地域おこしプロジェクト」に採択され、2017年8月より地域おこしプロジェクトとしての活動が開始された。

計画をつくり実施する（後半）

【2017年度】

2017年度は、N-impro カードを完成させ、地域における N-impro の展開に関する検討を行った。

- N-impro のプロトタイプをもとに検討を重ね、N-impro カードを完成させた。
2018年3月にココネリホールにて N-impro 完成発表会を開催した。

⁸⁾ 五十嵐歩，松本博成，青木伸吾，ほか：訪問介護サービスを利用する高齢者のコンビニエンスストア利用の実態．老年社会科学 40(3)：283-291，2018.

- コンビニ店舗との協働の一案として、2018年3月に店舗イベントを企画し、試行した。N-improの体験に加え、VRによる認知症の疑似体験を行うプログラム、地域包括支援センターによる介護相談などを実施した。

【2018年度】

2018年度は、N-improの研修プログラムとしての発展、練馬区内での普及、モデル地域におけるコンビニとの関係づくりに取り組んだ。プロジェクトに関連し、2018年5月に練馬区とコンビニチェーン2社間で高齢者見守り協定が締結され、地域包括支援センターによるコンビニ店舗への働きかけが推進された。

- コンビニにおける高齢者対応について学ぶ「ミニ講座」を作成した。
- N-improファシリテーター養成講座を作成し、区内の全地域包括支援センター職員を対象に講座を開催した。
- モデル地域において、地域包括支援センターの職員とともに、コンビニとの関係づくりとN-improを活用した地域づくりに取り組んだ。

活動を評価し普及する

N-improプログラム参加者の意識・態度への効果と、地域でN-improを活用した取り組みによる効果について評価を実施した。

- N-improワークショップ前後に質問紙調査を実施し、参加者の高齢者支援に関する意識・態度に対するプログラムの効果を評価した。
- 2017年度および2018年度の2時点で、区内の全地域包括支援センターおよびコンビニ店舗を対象に郵送質問紙調査を実施し、コンビニにおける高齢者支援の行動や意識、地域包括支援センターとコンビニ店舗間の連携状況の変化を評価した。

・運営ミーティング

プロジェクトを進める上で、表2の通り毎月運営ミーティングを開催した。

表2 運営ミーティングの開催一覧

2017年度			
	開催日時	会場	主な議題
第1回	8月5日(土) 9:30-11:30	しゃくじ いの庭	<ul style="list-style-type: none"> 地域おこしプロジェクト事業役割分担 ゲーム開発
第2回	9月13日(水) 17:30~21:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> コンビニのニーズに関するブレインストーミング
第3回	9月27日(水) 18:00~20:00	しゃくじ いの庭	<ul style="list-style-type: none"> 運営体制、運営方針について 知的財産権について
第4回	10月13日(金) 19:00~21:00	たがらの 家	<ul style="list-style-type: none"> 運営体制、運営方針について プログラムのアイデア出し
第5回	10月31日(火) 16:30-18:30	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 団体設立に向けた進捗報告 協働推進課職員との役割分担・連絡方法の検討
第6回	11月3日(月) 19:00-21:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 各グループのタスク、工程表の確認 質問紙調査の進捗報告 つながるフェスタ申し込みについて
第7回	12月11日(月) 19:00-22:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトスケジュール確認 ファミリーマート訪問報告 各グループ活動進捗報告
第8回	12月25日(月) 19:00-22:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 組織図・運営体制の再検討 事業経費検討
第9回	1月15日(月) 19:00-22:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 団体運営について 各イベント計画・準備 知的財産権について(弁理士より)
第10回	1月31日(水) 19:00-22:00	本庁舎 901 会議 室	<ul style="list-style-type: none"> 2/12 つながるフェスタ準備 2/21 ファミリーマート対象 N-impro ワークショップ準備
第11回	2月21日(水) 18:30-20:30	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 2/21 ファミリーマート対象 N-impro ワークショップ報告 3/12 N-impro 発表会準備 3/22 コンビニ店舗イベント準備 平成30年度活動計画
第12回	3月26日(月) 19:00-21:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 各イベント報告 平成29年度経費まとめ

2018 年度			
	開催日時	会場	主な議題
第 1 回	4 月 16 日 (火) 19:00-21:20	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度活動振り返り 平成 30 年度運営方針と計画 キャラクター名称決定
第 2 回	5 月 15 日 (火) 19:00-21:40	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度予算案検討 ファシリテーター養成講座内容検討 ・イベント依頼への対応検討
第 3 回	6 月 26 日 (火) 19:00-21:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> モデル地域活動検討 各イベント準備 ・ファシリテーター養成講座準備
第 4 回	7 月 24 日 (火) 19:00-21:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 各イベント報告 ファシリテーター養成講座リハーサル等確認 モデル地域とのミーティングについて
第 5 回	8 月 28 日 (火) 19:00-20:30	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 7/31 第 2 育秀苑地域包括の N-impro 活用報告 モデル地域打ち合わせ報告
第 6 回	9 月 25 日 (火) 19:00-21:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 9/18 図書館 N-impro 報告 ファシリテーター養成講座準備 ・モデル地域活動検討
第 7 回	10 月 23 日 (火) 19:00-21:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> モデル地域活動進捗 事例報告 質問紙調査準備
第 8 回	11 月 27 日 (火) 19:00-20:30	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> モデル地域活動状況 ファシリテーター養成講座報告 質問紙調査進捗
第 9 回	12 月 25 日 (火) 18:30-20:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーター養成講座終了報告 モデル地域活動状況 報告書について
第 10 回	1 月 22 日 (火) 19:00-20:15	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> N-impro 活用事業実績報告 ニュースレターの作成検討 学会発表について
第 11 回	2 月 26 日 (火) 19:00-21:00	ココネリ 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議 N-impro 活用報告 2019 年度事業の進め方 各イベント準備
第 12 回	3 月 15 日 (火) 19:00-21:00	本庁舎 1907 会議 室	<ul style="list-style-type: none"> 報告書について 来年度の事業について

．活動内容

１．ワークショップ

(1) 2017 年度

2017 年度は、表 3 の通り、ねりまコンビニ協働プロジェクトの主催により N-impro を活用したワークショップを開催した。

表 3 2017 年度 N-impro ワークショップの実施状況

	イベント名	対象者	日時	会場	参加
1	練馬つながる フェスタ出展	地域住民	2月12日	ココネリ	
2	ファミリーマート 社員研修	ファミリーマート 社員	2月21日	ココネリ	12
3	N-impro 完成発表会	地域住民・介護事 業者・コンビニ	3月12日	ココネリ	200
4	ミニフェス	地域住民・コンビ ニ利用者	3月22日	セブン-イレブン練 馬田柄通り店、セブ ン-イレブン練馬春 日町4丁目店	

出入り自由のイベントのため、正確な参加者数は不明

(2) 2018 年度

2018 年度は、表 4 の通り、N-impro を活用したワークショップを行った（ 印は後述するモデル地域での活動の一貫 ）。

表 4 2018 年度 N-impro ワークショップの実施状況

	主催者	対象者	日時	会場	参加
1	東京都生活協同組合連 合会	生協関連職員、組合員 など	7月6日	東京都生協連 会館（中野区）	20
2	大泉学園まちづくりネ ット	大泉学園地域のコン ビニ、商店、町会、福 祉施設など	7月12日	福祉施設	54
3	第2育秀苑地域包括支 援センター	地域ケアセンター会 議参加者：民生委員	7月31日	第2育秀苑地 域包括支援セ ンター	9

4	ねりまコンビニ協働プロジェクト	大泉・関町・貫井・南田中図書館職員(図書館流通センター)	9月18日	貫井図書館	22
5	第2育秀苑地域包括支援センター	地域住民(町会会員など)	10月9日	第2育秀苑地域包括支援センター	6
6	南大泉地域包括支援センター	地域住民(町会会員、小学生など)	10月14日	大泉西小学校(イベント)	12
7	石神井地域包括支援センター	地域ケアセンター会議参加者:地域住民(町会会員など)	10月18日	石神井庁舎	12
8	中村橋地域包括支援センター	貫井図書館職員	10月22日	貫井図書館	35
9	やすらぎミラージュ地域包括支援センター	稲荷山図書館職員	12月25日	稲荷山図書館	18
10	中村橋地域包括支援センター	(社福)奉優会法人内研修、はつらつセンター豊玉、栄町敬老館職員	1月10日	はつらつセンター豊玉	7
11	南大泉地域包括支援センター	地域ケアセンター会議参加者:コンビニ、介護関係者、地域住民	1月22日	南大泉地域集会所	21
12	練馬高松園地域包括支援センター	春日町図書館職員	1月28日	春日町図書館	30
13	大泉学園地域包括支援センター	はつらつセンター大泉の利用者	1月29日	はつらつセンター大泉	20
14	中村橋地域包括支援センター	地域ケアセンター会議参加者:コンビニ、介護関係者、地域住民	2月7日	中村橋地域包括支援センター	35
15	フローラ石神井公園地域包括支援センター	地域ケアセンター会議参加者:コンビニ、介護関係者、地域住民	2月15日	下石神井地区区民館	36
16	やすらぎミラージュ地域包括支援センター	地域ケアセンター会議参加者:コンビニ、介護関係者、地域住民	2月19日	やすらぎミラージュ地域包括支援センター	30

17	第2育秀苑地域包括支援センター	小竹図書館職員、介護関係者、民生委員、地域住民	2月23日	小竹図書館	22
18	貫井中学校	中学生	3月6日	貫井中学校	130
19	大泉地域包括支援センター（予定）	南大泉図書館職員	3月25日	南大泉図書館	-

合計 519

2. モデル地域での活動

2018年度に行うべき課題として、2017年度に完成されたN-improを活用し、コンビニ店舗と連携できる関係を構築すること、N-improの活用による地域づくりの活動を推進することが挙げられた。

1点目のコンビニ店舗との関係づくりに関しては、プロジェクトの進行に伴いコンビニとの連携をさらに推進するために、2018年5月、練馬区はセブン-イレブン・ジャパン、ファミリーマートと「練馬区高齢者見守りネットワーク事業協定」を締結した。この協定締結をきっかけに、練馬区は区内の地域包括支援センターに対し、担当地域のコンビニ店舗と連携を進める関係づくりを行うよう通知した。しかし、従来の地域包括支援センターは地域の商店街や町会との連携に力を入れていたこともあり、地域包括支援センターがコンビニ店舗と「顔の見える関係」を構築することのハードルは高かった。そのため、コンビニ店舗との関係づくりの方法をモデルとして示す必要があると考えられた。

2点目のN-improによる地域づくりを推進するために、区内の全地域包括支援センターの職員を対象にファシリテーター養成講座を開催した。しかし、実際の地域づくりの活動におけるN-improの活用方法については示すことができておらず、地域包括支援センターが地域づくりに取り組む際に参考にできる活用例を提示することが必要と考えた。

以上をふまえ、コンビニ店舗との関係づくりの方法論をモデル化すること、N-improを活用した地域づくりの実践例を提示すること、を目的に、1地域包括支援センターの管轄地域をモデル地域として設定し、地域包括支援センターとともに、高齢者支援におけるコンビニとの協働に向けた活動に取り組んだ。モデル地域の設定にあたっては、地域の特性と地域包括支援センターの運営法人のこれまでの取り組み状況を考慮し、社会福祉法人奉優会の運営する中村橋地域包括支援センターが担当する貫井・中村北地域を選定した。

プロジェクト成果の発表

論文

- 五十嵐歩、松本博成、鈴木美穂、濱田貴之、青木伸吾、油山敬子、村田聡、鈴木守、安井英人、山本則子．訪問介護サービスを利用する高齢者のコンビニエンスストア利用の実態—コンビニエンスストアが生活支援の役割を果たしている事例に関する質問紙調査—．老年社会科学. 2018; 40(3): 283-291．
- Nakamura Y, Matsumoto H, Yamamoto-Mitani N, Suzuki M, Igarashi A. Impact of support agreement between municipalities and convenience store chain companies on store staff's support activities for older adults. Health Policy. 2018 Dec; 122(12):1377-1383.
- Matsumoto H, Igarashi A, Suzuki M, Yamamoto-Mitani N. Association between Japanese neighborhood convenience stores and independent living in older people. Australasian Journal on Ageing. 2019 Jan 30. doi: 10.1111/ajag.12607.

学会発表

- 鈴木美穂、山本則子、五十嵐歩．コンビニエンスストアにおける高齢者支援に関するインタビュー調査．第 56 回日本老年医学会学術集会；Jun. 12-14、2014：福岡．
- 鈴木美穂、五十嵐歩、山本則子．コンビニエンスストアにおける高齢者支援に関するアンケート調査．第 57 回日本老年医学会学術集会；Jun. 12-14、2015：横浜．
- 五十嵐歩、松本博成、油山敬子、鈴木美穂、青木伸吾、安井英人、孫大輔、城島華子、山本則子．在宅認知症高齢者のコンビニエンスストア利用に関する 1 事例の検討：地域包括ケアにおける協働の推進に向けて．第 58 回日本老年医学会学術集会；Jun. 8-10、2016：金沢．
- 松本博成、五十嵐歩、油山敬子、鈴木美穂、青木伸吾、安井英人、孫大輔、城島華子、山本則子．コンビニエンスストアとスーパーマーケットの近接性が買い物行動の自立に与える影響～地域包括ケアにおける協働の推進に向けて～．第 58 回日本老年社会科学学会学術集会；Jun. 11-12、2016：松山．
- Matsumoto H, Igarashi A, Aoki S, Aburayama K, Yasui H, Suzuki M, Murata S, Hamada T, Yamamoto-Mitani N. Development of a dementia-friendly community program featuring convenience stores, 32nd International Conference of Alzheimer's Disease International. Apr. 26-29, 2017: Kyoto, Japan.
- 五十嵐歩、松本博成、青木伸吾、鈴木美穂、油山敬子、安井英人、村田聡、濱田貴之、山本則子．訪問介護サービスを利用する高齢者のコンビニエンスストア利用の実態．第 59 回老年社会科学学会大会；Jun. 14-16、2017：名古屋．

- 五十嵐歩、高岡茉奈美、鈴木美穂、村田聡、柳瀬奈緒美、宮原正量、山本則子．コンビニエンスストアにおける高齢者支援の実態 - 都市部コンビニエンスストアおよび地域包括支援センターへの質問紙調査 - ．日本老年社会科学会第 60 回大会；Jun. 9-10、2018：東京．
- Dw. Sari, Igarashi, A., Takaoka, M., Murata, S., Yanase, N., Shimogawara, T., Miyahara, M., Yamamoto-Mitani N. An Educational Program to Develop Dementia-Friendly Communities in Japan. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference; Jan. 17-19, 2019: Singapore.
- Kugai H, Igarashi A, Takaoka M, Suzuki M, Matsumoto H, Aoki S, Miyahara M, Yamamoto-Mitani N. Characteristics of Convenience Store Managers Interested in Supporting Community-Dwelling Older Adults. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) conference; Jan. 17-19, 2019: Singapore.

シンポジウム・研究会

- 五十嵐歩、松本博成．地域高齢者を支えるコンビニエンスストア：地域包括ケアにおける協働モデルの構築．アクションリサーチ勉強会；Jan. 29、2016：東京．
- 松本博成、五十嵐歩、油山敬子、鈴木美穂、青木伸吾、安井英人、孫大輔、城島華子、山本則子．超高齢社会におけるコンビニの可能性．東京大学高齢社会総合研究機構 国内シンポジウム 2016「ヘルシーエイジング社会をめざして」；Mar. 5、2016：東京．
- 松本博成、五十嵐歩、鈴木美穂、油山敬子、青木伸吾、安井英人、山本 則子：コンビニエンスストアの近接性が買い物行動の自立に与える影響．CSIS DAYS；Nov. 17-18、2016：東京．
- 五十嵐歩、松本博成、青木伸吾、油山敬子、安井英人、鈴木美穂、村田聡、佐瀬満雄、濱田貴之、山本則子．高齢者支援におけるコンビニエンスストアとの協働モデルの構築：地域包括ケアにおける age-friendly community を目指した community-based participatory research．日本情報処理学会 高齢社会デザイン研究会；Nov. 12、2016：東京．
- 地域高齢者を支えるコンビニエンスストアとの協働研究について．東京大学大学院 地域看護学 教室研究会；Feb. 10、2017：東京．
- 五十嵐歩．日本における高齢化対策：地域包括ケアシステム構築の取り組み—地域高齢者支援におけるコンビニエンスストアとの協働—．第 3 回日中高齢化社会政策と産業化シンポジウム；May 18-20、2018：北京．

解説

- 五十嵐歩．地域高齢者を支えるコンビニエンスストア - 地域包括ケアシステムにおける協働を目指して - ．Dia News , No.88 , 8-9 , 2017 .
(http://www.dia.or.jp/disperse/dianews/pdf/dianews_no88_05.pdf)
- 五十嵐歩、山本則子．地域高齢者を支えるコンビニエンスストア - 地域包括ケアシステムにおける協働を目指した取り組み - ．公衆衛生 , 2019; 83(4): 268-273 .

メディア掲載

- 「見守り発見テク」特集 見守りのヒント 生かそうコンビニの力 専門職との研修ツール開発してます．月刊ケアマネジメント , 27(10), 35, 2016 .
- 身近なコンビニが高齢者を支える！．ねりま地域活動ニュース 第11号．2018年2月25日
- 判断迷う場合の解決策 区内コンビニなどに導入．日本経済新聞．2018年3月14日
- コンビニ店認知症学んで 東大などゲーム形式の研修開発．読売新聞．2018年3月16日
- 認知症患者の接客研修 東京・練馬区と東大 ゲーム形式で．日経MJ．2018年3月23日
- コンビニ視点で高齢者対応 ゲームで考える町づくり．時事通信．2018年3月29日．
- コンビニでの認知症対応 ゲーム感覚「N-impro」で学ぶ．シルバー新報 1299号．2018年3月30日
- 小売り3社と認知症見守り 練馬区が協定．日本経済新聞．2018年6月20日
- 高齢者が住み慣れた地域で暮らせるまち．ねりま区報 第1831号．2018年6月21日
- ゲーム感覚で認知症対応を学ぶ コンビニ向け研修プログラム「N-impro (ニンプロ)」．介護だより 第18号．2018年10月

まとめ

プロジェクトにおいて、地域包括ケアシステムにおけるコンビニとの協働を目指した活動に取り組み、以下の成果が得られた。

研修プログラムの完成

- N-impro カードおよびミニ講座から構成される研修プログラムを完成させた。
- N-impro 認定ファシリテーター養成講座を作成し、練馬区の全地域包括支援センターの職員を対象に実施した。

N-impro を活用した地域づくり

- 練馬区内の各地域において、地域包括支援センターによるコンビニ店舗への働きかけが進み、コンビニ店舗と地域包括支援センターとの関係づくりへ発展した。
- モデル地域での活動の実践から、コンビニ店舗との関係づくりと N-impro を活用した地域づくりの方法例を提示した。

効果の検証

- N-impro プログラムの参加者への質問紙調査より、参加者の高齢者支援への意識の向上の効果がみられた。
- コンビニ店舗を対象とした質問紙調査の結果より、コンビニ店舗と地域包括支援センターとのつながりや連携、店舗における高齢者支援の実施への効果がみられた。

